

# 資料室便り

交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

### 『都市大阪の戦後史』

——復興・再生・発展』

橋爪紳也著／山川出版社発行／2023年7月／  
四六判／304ページ／2,640円（税込）

「大阪・関西万博」が開催される2025（令和7）年は「昭和100年」にあたる。また、大阪が都市計画を実施して市域を拡張した、いわゆる「大大阪」の成立から100周年の節目でもある。ただその道程は、戦時下や占領下における戦後復興期、さらに「1970年大阪万博」をエポックとする高度経済成長期に至るまで平坦ではなかった。各時代に生じた都市課題に関して、さまざまな計画や事業が練られ、今日の発展に繋がっている。本書は、「昭和の大阪」のうち戦後復興期から1970年大阪万博の開催までにフォーカスをあて、大阪がいかに再建され、また今日に至る都市基盤を整備してきたのか、都市計画や建設事業に関する一次史料から検証し、一般向けの読み物としてまとめたものである。 原□

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『都市の経済分析』

山田浩之著／東洋経済新報社発行／1980年11月

本書は、都市経済学の研究者（執筆当時京都大学教授。のちに日本交通学会会長などを歴任）が、都市経済分析のフレームワーク、住宅立地の理論・モデル・実証分析、およびアメリカにおける都市経済研究をまとめたものである。都市（都市地域）とは、①密集性、②非農業的土地利用、③異

質性（流動性）を兼ね備えた地域のことであり、都市経済学では従来の経済学と違って、外部効果を見逃した分析はできない。本書では、まず都市になぜ人々が集中し成長するのか、都市化のプロセスでどのような都市問題がもたらされ、それを解決する都市政策はどのようなものかを論じている。次に、土地市場における土地利用決定のメカニズム、最も重要な住宅市場の分析、住宅問題と住宅政策について論じている。そして、住宅立地の理論と実証分析が紹介されている。さらに、1970年代はじめまでのアメリカにおける都市経済学の成立過程を鳥瞰している。 古森□

## ■新着情報（2023年7月分）

- 1 交通経済統計要覧 2021（令和3）年版——数字でみる交通経済 国土交通省総合政策局監修 運輸総合研究所 2023年7月
- 2 最新 世界の高速鉄道 海外鉄道技術協力協会 ぎょうせい 2023年6月
- 3 いちからわかる 都市計画のキホン〔改訂版〕 佐々木晶二 ぎょうせい 2023年6月

→続きの情報はホームページで

\* 上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



## ■資料室からのご案内

関東大震災から本年度で100年が経過しました。資料室では、自然災害に関係する交通・鉄道の記録や復旧状況などを収集・保管しています。昨年の本誌11月号「書庫のなかから（所蔵資料の紹介）鉄道開業150年」では「災害対応」として、地震、水害、噴火などに対応した記録をご紹介しました。ぜひご来室のうえ、手に取ってご覧ください。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳